

## 促成イチゴにおける第 2 花房の花芽分化・発達に及ぼす N 肥料の影響

沖村 誠・\*奥津伸二 (熱帯農業研究センター沖繩支所・\*野菜試験場久留米支場)

## Makoto OKIMURA and Shinji OKITSU: Effect of Nitrogen Fertilizer on the Second Flower Bud Differentiation and Development of Forcing Strawberry

ポット育苗によるイチゴの促成栽培で問題になる収穫の中休み問題に関連して、育苗時および定植時の施肥量の違いが、第 2 花房の花芽の分化・発達に及ぼす影響について検討した。

## 1. 実験方法

実験は、'はるのか'を供試し地床育苗を加え、第 1 表のような処理で行った。1983 年 6 月 29 日に採苗し、9 月 21 日に定植、10 月 24 日にビニルを被覆した。

## 2. 実験結果および考察

定植直前の苗の生育は、地床育苗がポット育苗より大きく、ポット育苗では育苗時の追肥量が多く遅くまで追肥した区はどうかラウン径等が大きく、充実した苗であった。

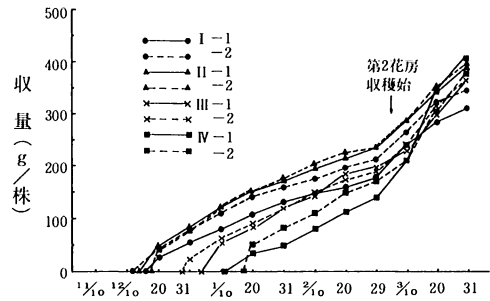
第 2 花房の花芽の分化・発達等についてみると (第 1 表)、花芽分化期は頂花房と同様な傾向がみられ、I・II 区は 10 月 20 日の検鏡ではすでに花芽が分化していたが、III・IV 区は未分化の状態であった。また、出蕾・開花も頂花房と同様に、I・II 区が早く、次いで III 区で、IV 区は遅れ、育苗時の追肥量が多いほど遅れた。収穫始めについても、同様に I・II 区が早かった。着果数については、基肥量の 20 kg 施用区が 10 kg 施用区よりまさる傾向にあった。

頂花房の出蕾・開花・収穫始めから第 2 花房の出蕾・開花・収穫始めまでの所要日数を比較すると、出蕾日ではいずれの処理も 40 日前後であり、また開花始めについてもほぼ 50 日の所要日数で大差なかった。しかし、収穫始めについての所要日数では処理間に明らかな差がみられ、I・II 区は 80 日前後で、III 区の 68 日前後、IV 区の 50 日前後に比べかなり長く、明らかに収穫の中休みがみられた。

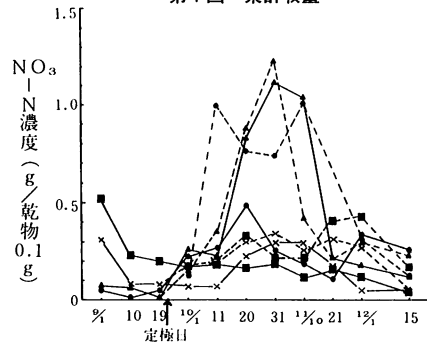
累計収量は、ポット育苗が地床育苗より、ポット育苗でも育苗時の追肥量が少ない I・II 区が早期収量が多く、また定植時の 20 kg 施用区が 10 kg 施用区より早期収量が多い傾向にあった (第 1 図)。

葉柄中の NO<sub>3</sub>-N 濃度の時期別変化をみると、育苗時に濃度の高かった III・IV 区は、定植後も大きな濃度変化

がみられなかったのに対し、I の 20 kg 施用区と II の二つの区は、10 月～11 月上旬に極端に高い N 濃度を示した (第 2 図)。第 2 花房の花芽分化期におけるこのような N の高濃度が、花芽の分化・発達を抑制することなく、着果数も多かったことは、第 2 花房の花芽分化にはイチゴ体内の N 濃度は、頂花房の場合のような決定的影響はほとんどないものとみられる。したがって、基肥の N 肥料は、20 kg 施用区が 10 kg 施用区より着果数が多かったことからみても、定植後のイチゴの生育を良好にし、生産性を高めるという観点から施用すべきものと考えられる。



第 1 図 累計収量

第 2 図 第 3 葉柄中における NO<sub>3</sub>-N の時期別変化

第 1 表 出蕾・開花・収穫始

No.	処 理			頂 花 房				第 2 花 房					
	育苗時 N追肥 <sup>b</sup>	最終 追肥	定植時 N基肥 <sup>c</sup>	花芽 分化 <sup>d</sup>	出蕾日	開花始	収穫始	着花数 <sup>e</sup>	花芽 分化 <sup>d</sup>	出蕾日	開花始	収穫始	着花数 <sup>e</sup>
a	mg/鉢	月 日	kg/10 a		月 日	月 日	月 日		月 日	月 日	月 日		
I-1	0	—	10	+	10.21	11. 3	12.16	15.2	+	11.28	12.25	3. 3	13.0
I-2	0	—	20	+	10.18	11. 1	12.12	17.6	+	11.26	12.22	3. 4	14.6
II-1	75	8. 5	10	+	10.21	11. 4	12.14	15.7	+	11.29	12.27	3. 4	14.5
II-2	75	8. 5	20	+	10.22	11. 5	12.17	19.5	+	12. 1	12.28	3. 5	15.7
III-1	150	8.26	10	—	10.27	11.11	1. 3	15.5	—	12. 9	1. 7	3. 9	12.6
III-2	150	8.26	20	—	10.24	11. 9	12.28	18.8	—	12. 6	1. 3	3. 7	13.1
IV-1	—	—	10	—	11. 4	11.22	1.17	14.0	—	12.12	1. 8	3. 6	14.4
IV-2	—	—	20	—	11. 4	11.22	1.17	16.5	—	12.14	1.14	3. 9	14.5

注) a: I-IIIポット育苗, IV地床育苗, b: キッポ青で施用, c: CDUS 222 で施用, d: 頂花房は 9 月 16 日, 第 2 花房は 10 月 20 日に調査+  
: 分化-: 未分化, e: 頂花房は 11 月 24 日, 第 2 花房は 1 月 27 日に調査